

日刊 木材 新聞

小角の安定供給体制を強化

インターフォー

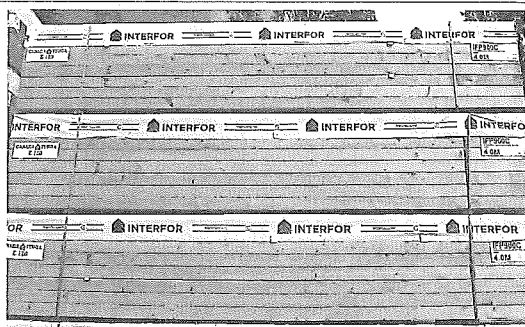
インターフォー(カナダBC州バンクーバー、ダンカン・デイビス社長)は日本向けの主力工場であるエーコン工場(BC州デルタ)による米ツガ、米松の小角の安定供給体制を強化する。エッジャーのスキヤナーやプレーナーを最新鋭機に更新し、生産効率や歩留まり、仕上がり品質を向上させるほか、乾燥機の稼働率も高める。「エーコン工場にとって日本は今後も最重要市場であることに変わりはなく、価格競争力を高め、将来にわたって最も信頼できるサプライヤーとなることを目指す」(同社)。

エーコン工場に設備投資

エーコン工場は日本向けの小角(米ツガのグリーン及びKD、米松のKD)を専門に製材する工場で、規格外品は他国に販売しているが、1シフト週5日稼働で年間25万、30万立方材を生産している。あえて1シフトに限定し、無理せず丸太の調

達量に見合った量を製材することでコストの変動を抑え、丸太を事前に玉伐りして仕分けすること、限られた量のなかでもその時々日本市場のニーズに合ったサイズ、長さの比率で供給できるようにしている。

特に今年は年初から丸太の供給タイトが予想されたことから、山火事などの気象変化を見越して集材を進めるなど事前の準備を徹底してきた。こうした努力もあって、昨年来、目まぐるしく変化する気象条件や市況のなかでも、同工場では現在



日本向けの主力商品である米ツガグリーン小角(IFPグレード)

を最新鋭型に入れ替えることで製材歩留まりを向上させることも、目立て機を更新し、エッジャーの製材効率や挽き肌的美観を向上させる。さら

システムを接続し、外部からも燃料を投入できるようにする。従来はハモンド工場から出るプレーナー屑しか投入できず、燃料消費量が増える冬場は不足しがちだった。年間を通じて乾燥機をフルで回せるようになることで、KD材の供給安定性も高まる。

まで1カ月もスキップすることなく、日本向けの安定供給を維持している。

今回の投資はそうした取り組みを一段と強化するのが目的で、エッジャーのスキヤナー(基)のボイラにパイパ

輸入米材製品は産地の天候不順や現地市況の高騰により、昨年来、日本向けの供給が不安定化している。特に供給ソースが限られる米ツガ製材は昨年の入荷量が前年比15.0%減。今年も8月までの累計で前年同期比9.8%減と減少に歯止めが掛かっていない。

同社では北米からの日本向け供給が減少するなか、エーコン工場が変わずに安定供給を続けてきたことを改めてアピールするとともに、日本向けの製材に合わせた設備投資を実施することで、サプライヤーとしての信頼向上と価格競争力の強化を図る。